

モーセ
聖徒伝 57

「待ち望むべきは メシア」

申命記17~21章

王の規定・モーセのような預言者

申命記 5

【今日のアウトライン】

0. ふりかえり

I. 死刑・裁き・王の規定 17章

II. レビ人と祭司 忌むべき習慣

モーセのような預言者 18章

III. 逃れの町 証人と裁き 19章

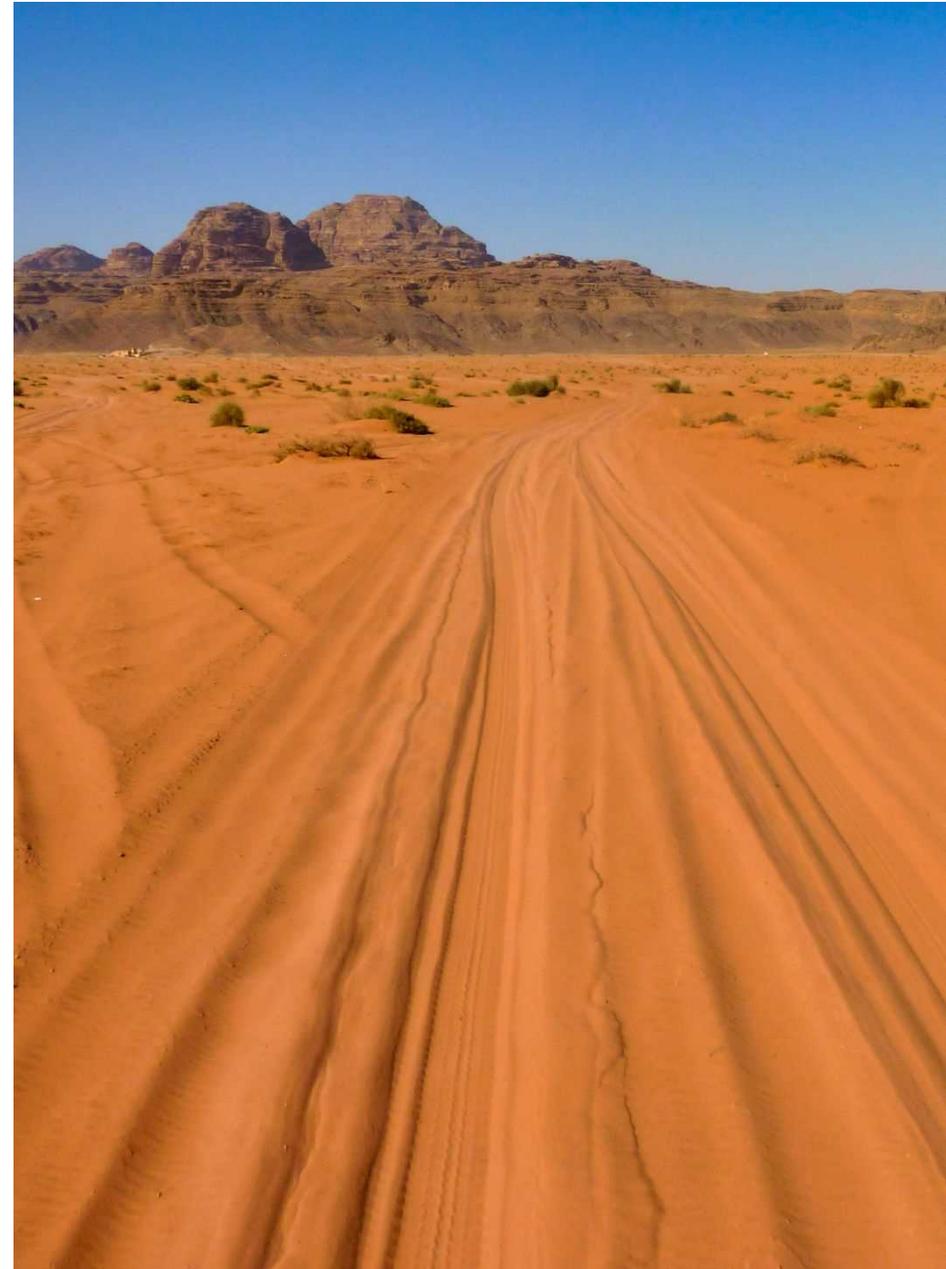
IV. 戦いの備え 20章

V. 犯人不明の殺人の扱い

家族法 21章

VI. まとめと適用

真実の預言者であり、王
メシアを待ち望む信仰に生きる



【アブラハム契約とは？】

聖書全体を貫く、大原則

神の世界回復と人類救済計画の柱

【三つの主な条項】

①子孫の約束

②土地の約束

③祝福(地上の諸民族の祝福)の約束

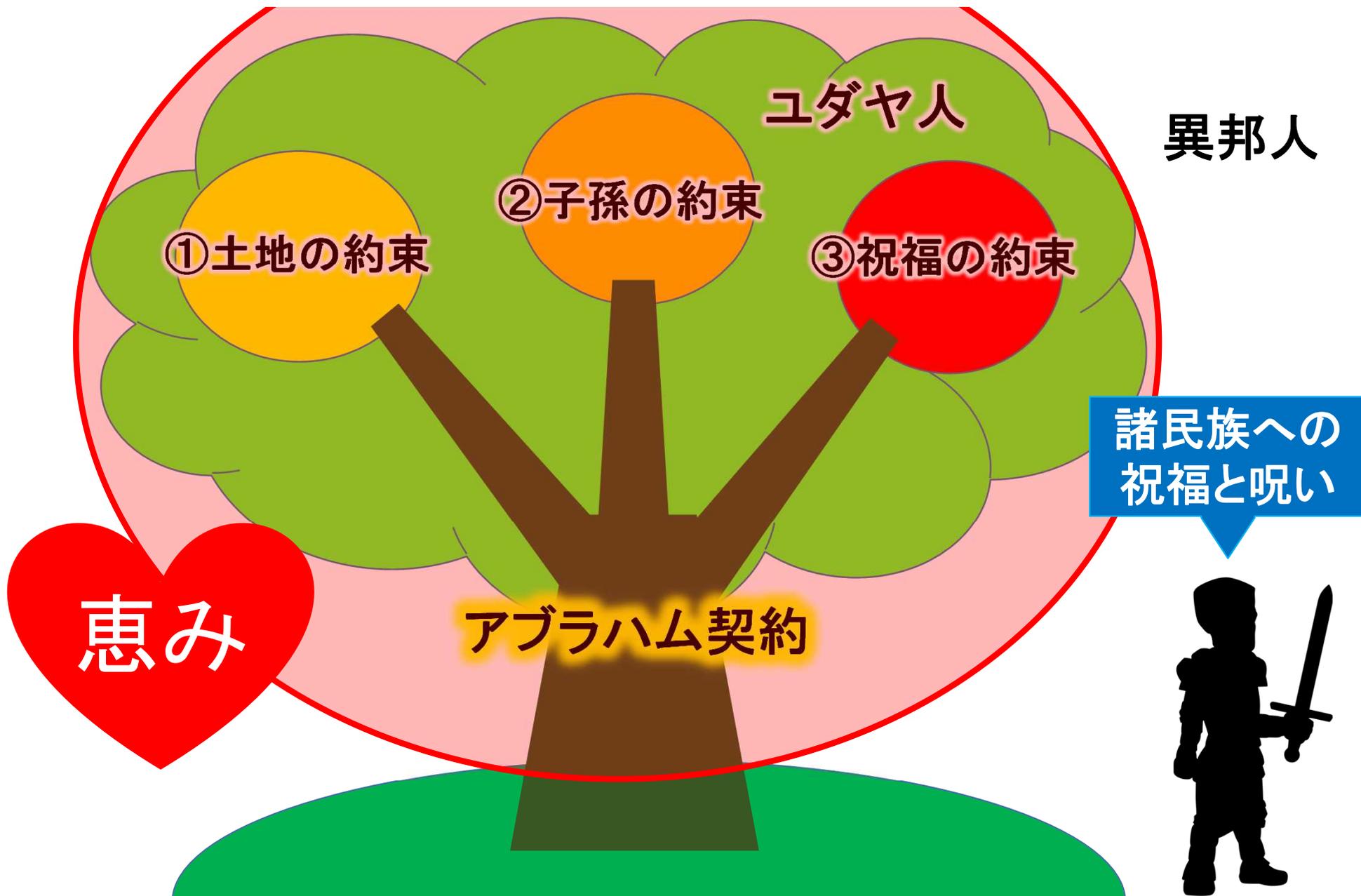
※付帯条項 ...祝福と呪い。イスラエルの生存保証。

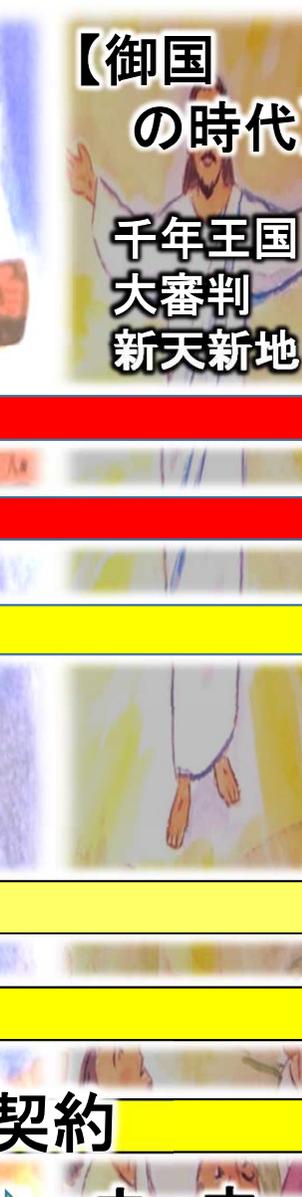
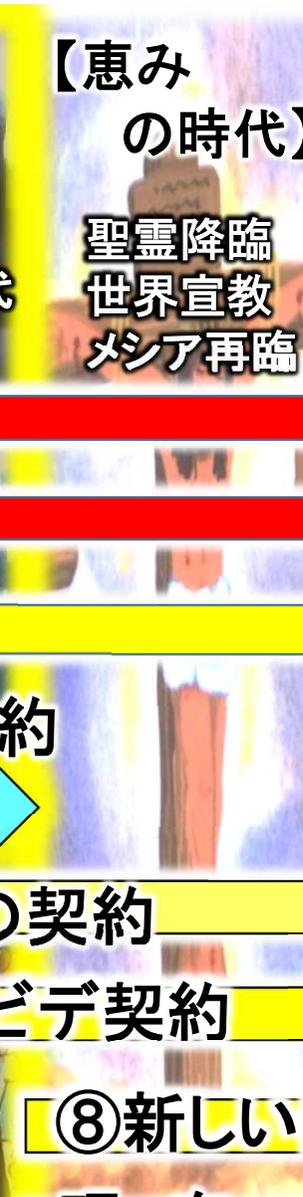
※しるし ...割礼

イスラエルを
守り導く土台



【アブラハム契約】





【無垢の時代】

【良心の時代】

【人類統治の時代】

【約束の時代】

【律法の時代】

【恵みの時代】

【御国の時代】

天地創造

墮罪
~大洪水

バベルの塔事件

アブラハム
~ヤコブ

イスラエル
王国時代
メシア初臨

聖霊降臨
世界宣教
メシア再臨

千年王国
大審判
新天新地

①エデン契約

②アダム契約

③ノア契約

④アブラハム契約

⑤モーセ契約

⑥土地の契約

⑦ダビデ契約

⑧新しい契約

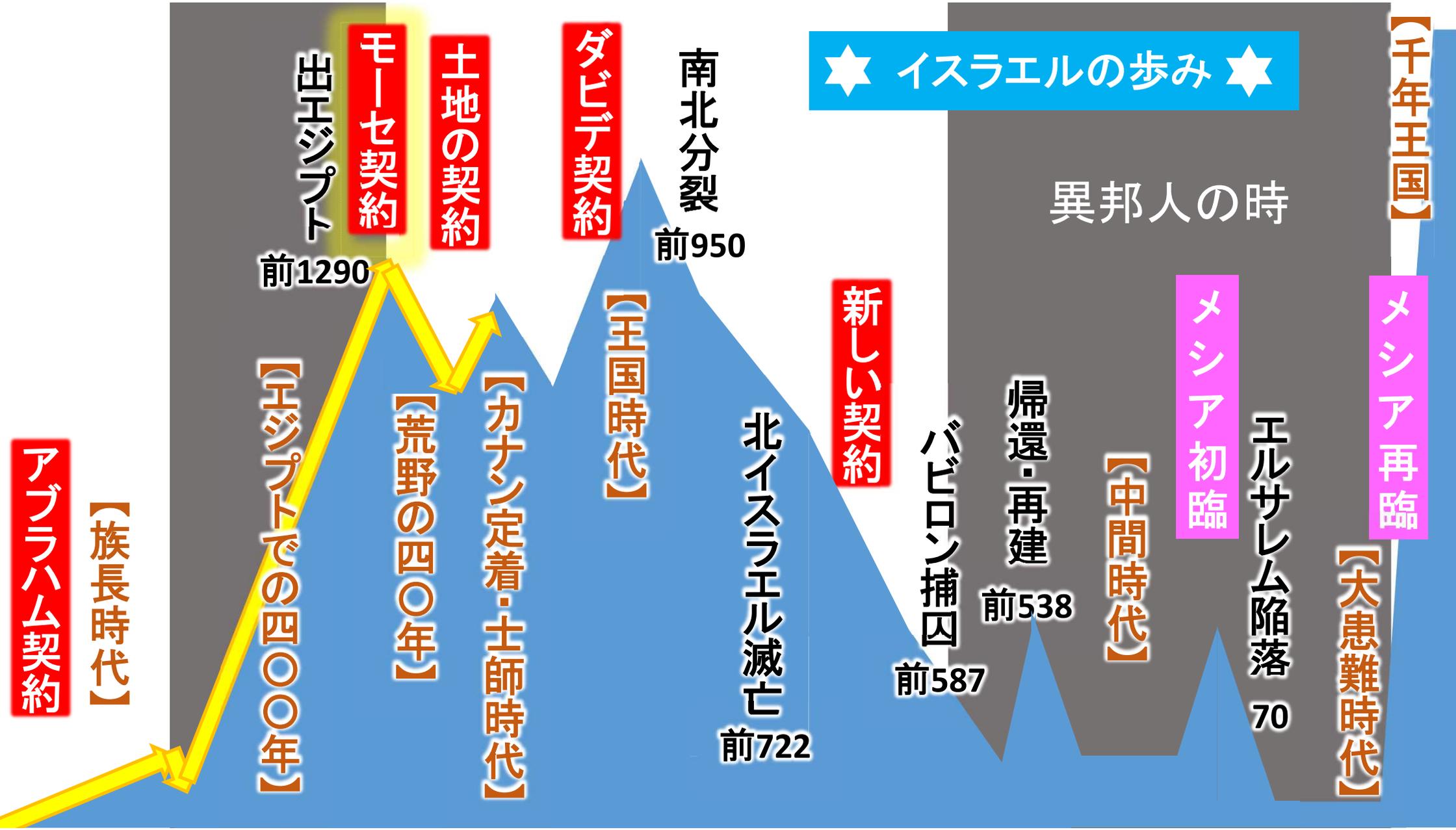
神の約束が、人類と世界の歴史を導く!!

過去

現在

未来

★ イスラエルの歩み ★



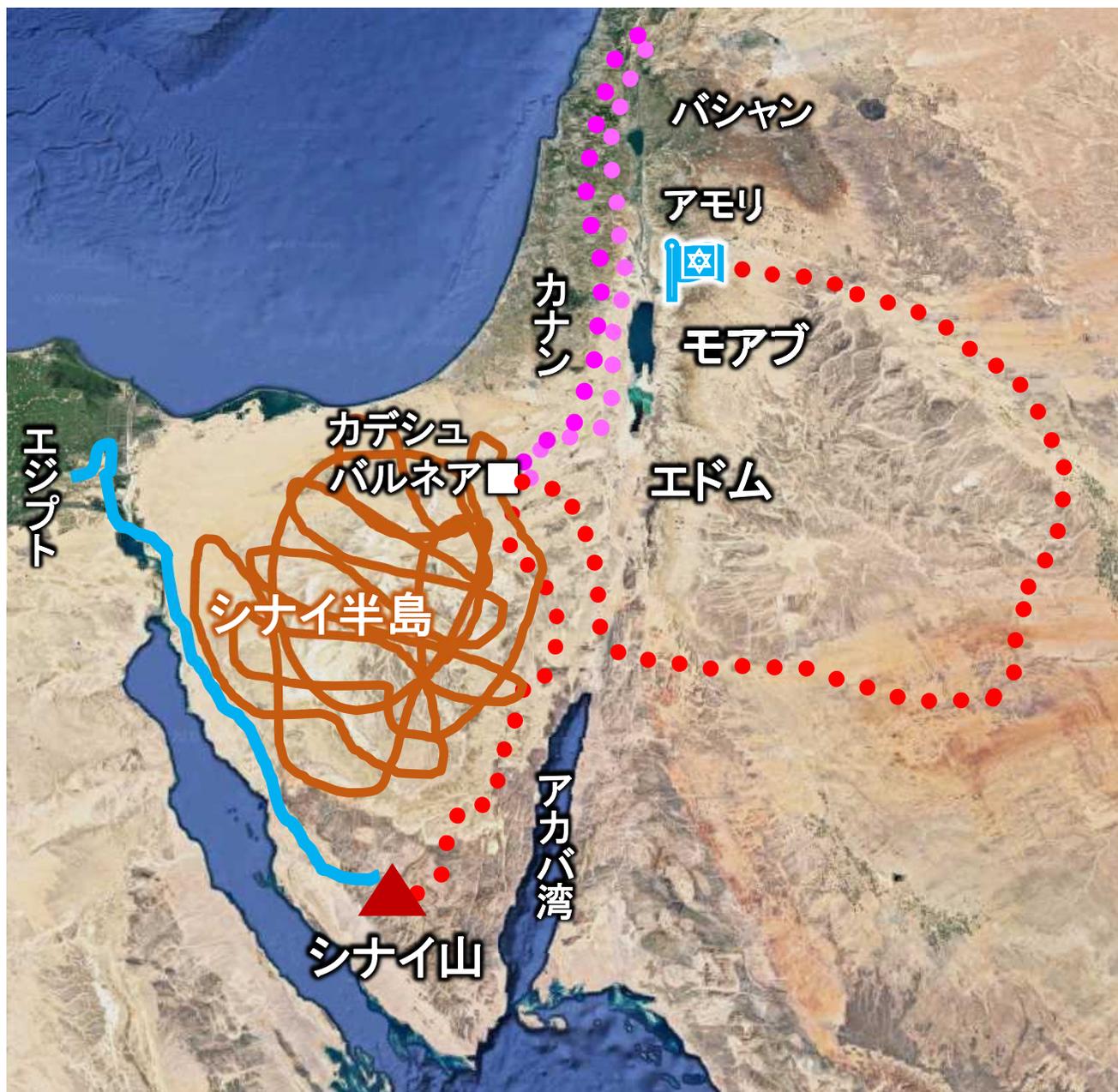
【荒野の40年】

■カデシュ・バルネア事件

イスラエルは、神に反逆し、その世代の者は、荒野で死に絶えることとなった。

■ エジプトから約束の地まで、歩いて10日ほどの距離をイスラエルは、40年放浪した。

■ ヨルダン川の東まで、イスラエルはやってきた。



【モーセの律法 十戒とは？】

★モーセの律法(モーセ契約・シナイ契約)

- ・シナイ山で、イスラエルと結ばれた契約
- ・「十戒」がその中心 ...全部で613の条項
(出20:1～申28:68)

★モーセの律法の七つの特徴

- ①救いの方法ではない。
- ②神が聖であることを示す。
- ③旧約時代の聖徒たちの行動基準である。
- ④人の罪を示す
- ⑤人にもっと罪をおかさせる力となる。
- ⑥人を信仰へと導く
- ⑦今現在は、すでに役目を終えた。

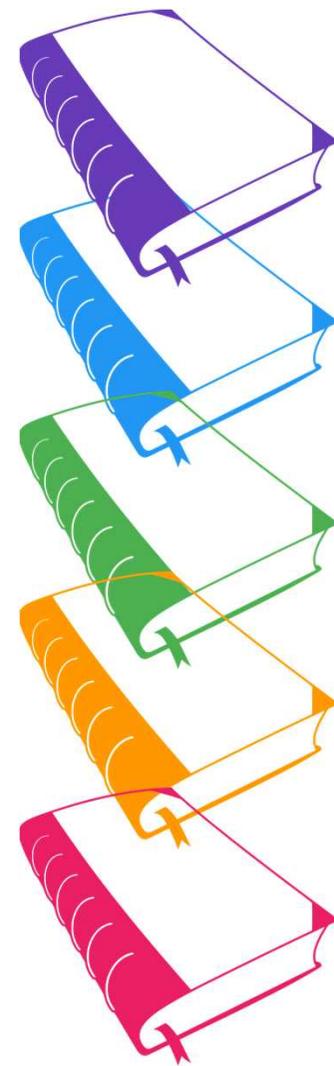


律法は、条件付き契約

従えば、祝福。破れば、呪い

【モーセ5書の内容】

- 創世記 (「エデン契約」「アダム契約」「ノア契約」「アブラハム契約」)
...天地創造から、アブラハム⇒イサク⇒ヤコブまで。
- 出エジプト記 (「シナイ契約」・十戒)
...モーセ誕生。エジプト脱出。律法授与。幕屋の完成。
- レビ記 (三大祭)
...律法。主に祭儀と清めの条項。民の学びの期間。
- 民数記 (カデシュ・バルネア事件)
...点呼、出発。民の過ちと神への反抗。40年の放浪へ。
- 申命記 (「土地の約束」)
...40年の荒野放浪後。新世代への信仰継承。
モーセの遺言。律法全体の総まとめ。



【申命記・アウトライン】

I. 過去の回顧 1～4章

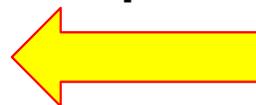
ホレブ山地からヨルダン川東岸まで 1～4章

II. 律法の解説 6～11章

① 十戒 5章

② 主要な規定(シエマ6:4～5) 6～11章

③ その他の諸規定 12～26章



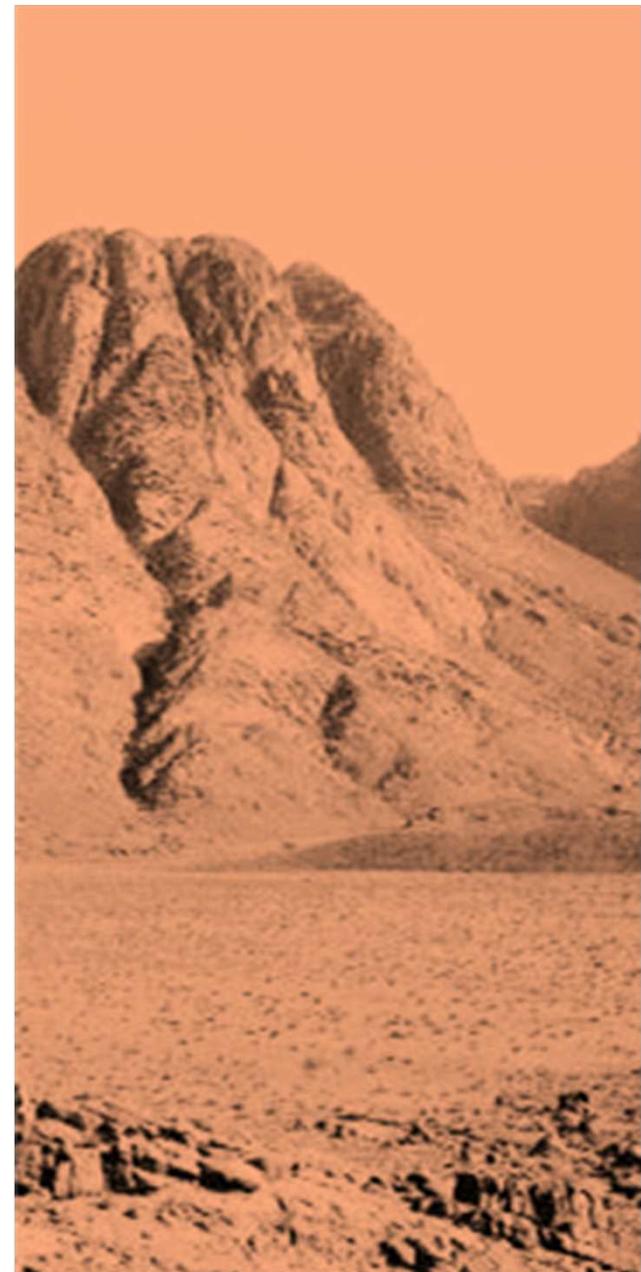
III. 未来の展望 27～30章

① 祝福と呪い 27～28章

② 「土地の契約」 29～30章

IV. 指導者の交代 31～34章

モーセからヨシュアへ



I . 死刑・裁き・王の規定

申命記16章18節～17章



【求められる神の正義】 申16:18～20

16:18 あなたの神、【主】があなたに与えようとしておられる、あなたのすべての町囲みの中に、あなたの部族ごとに、さばき人たちと、つかさたちを任命しなければならない。彼らは公正に民をさばかなければならない。

16:19 あなたはさばきを曲げてはならない。人を偏って見てはならない。賄賂を取ってはならない。賄賂は知恵のある人を盲目にし、正しい人の言い分をゆがめるからである。

16:20 正義を、ただ正義を追い求めなければならない。そうすれば、あなたは生き、あなたの神、【主】が与えようとしておられる地を自分の所有とすることができる。



民の指導者は、
神の正義の執行者

諸規定は、
神の正義に基づく

【純粋な礼拝】 申16:21～22

あなたが築く、あなたの神、【主】の祭壇のそばに、
どのような木でできたアシェラ像*も立ててはならない。
あなたは、あなたの神、【主】が憎まれる石の柱*を立ててはならない。

* 女神アシェラ ...性的儀式を伴う豊穡神。

* 石の柱 ...男神バアルの象徴。

■ 部族の裁き主の規定に続いての偶像の禁止。

■ 欠陥のあるいけにえも、堅く禁止される。

➡ 礼拝の純粋性を保つことが、重ねて求められる。



【死刑・裁き・証人】 申17:2～13

■ 神の正義に背き、悪を行い、契約を破り、偶像に仕えた者は、石打刑による死刑となる。

■ 死刑には2～3人の証人が必要。

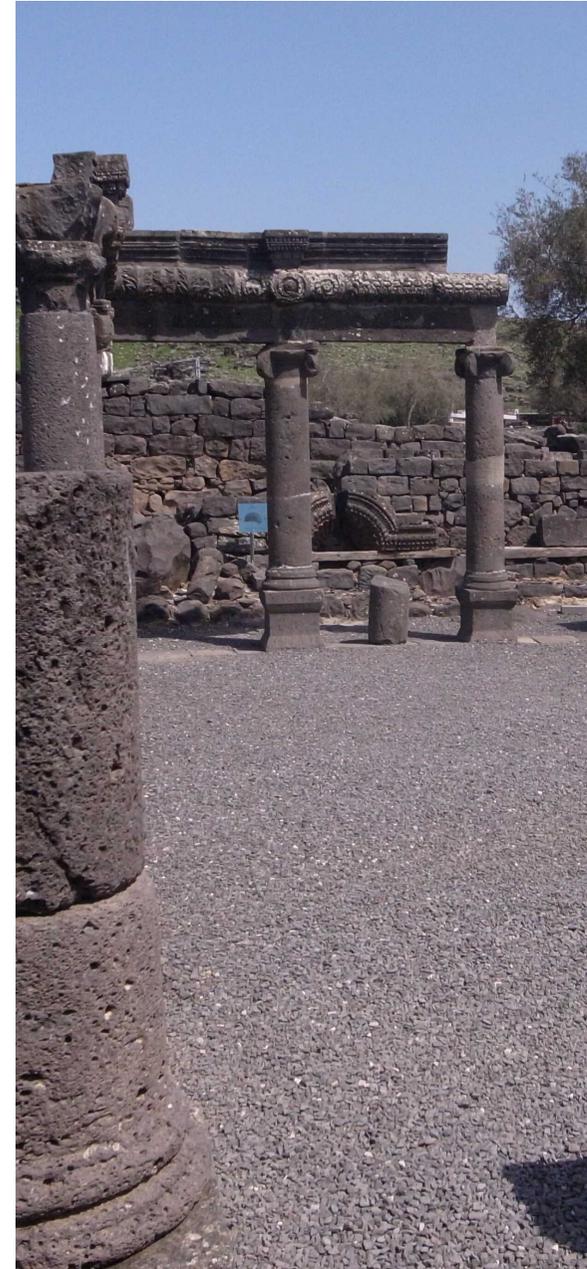
■ 石打刑は証人が最初に石を投げた。

証人には、事件への潔癖さと責任が求められた。

➡この適用が、“**姦淫の女の裁き**” ヨハネ8:7

■ 重大な争いは、聖所で主に仕える祭司やさばき人に委ねられ、その判決に従うことが求められた。

■ その判決に逆らうものは死刑に処せられた。



【王についての規定】 申17:14～20

あなたの神、【主】があなたに与えようとしておられる地に入行って、それを占領し、そこに住むようになったとき、あなたが「周りのすべての国々と同じように私も自分の上に王を立てたい」と言うなら、必ず、**あなたの神、【主】が選ばれる者**をあなたの上に王として立てなければならない。**あなたの同胞の中**から、あなたの上に王を立てなければならない。同胞でない異国人をあなたの上に立てることはできない。

■最初のサウル王が立てられるのは、この数百年後。

■後のヘロデ大王は、イドマヤ人からローマが選んだ。



【王への命令】 申17:14～20

■ 将来の王に対する三つの禁止事項が告げられる。

- ① 馬を増やす ➡ 軍事力に頼り、増強すること。
- ② 多くの妻を持つ ➡ 政略結婚。偶像が持ち込まれる。
- ③ 過剰な銀や金 ➡ 金銀に信頼を置く。

■ この教えを書き写し、一生手放さないことが命じられる。

■ このすべてを破ったのが、ソロモン王。

➡ 重々分かっていたはず。人の罪の重さ。

■ ソロモンの罪以降、王国は分裂し、転落の一途へ!!





Ⅱ. レビ人と祭司 忌むべき習慣 モーセのような預言者

申命記18章

【レビ人と祭司の規定】 申18:1～8

■ 相続地のないレビ人と祭司は、民のささげ物が糧となる。
肉、穀物、葡萄酒、油など、取り分が明確に定められた。

「18:2【主】ご自身が彼らのゆずりである。」

➡この最大の祝福に、すべての信者があずかる時が!!

① レビ人の役割 ➡①祭司に仕え、②民に律法を教える。

② 祭司の役割

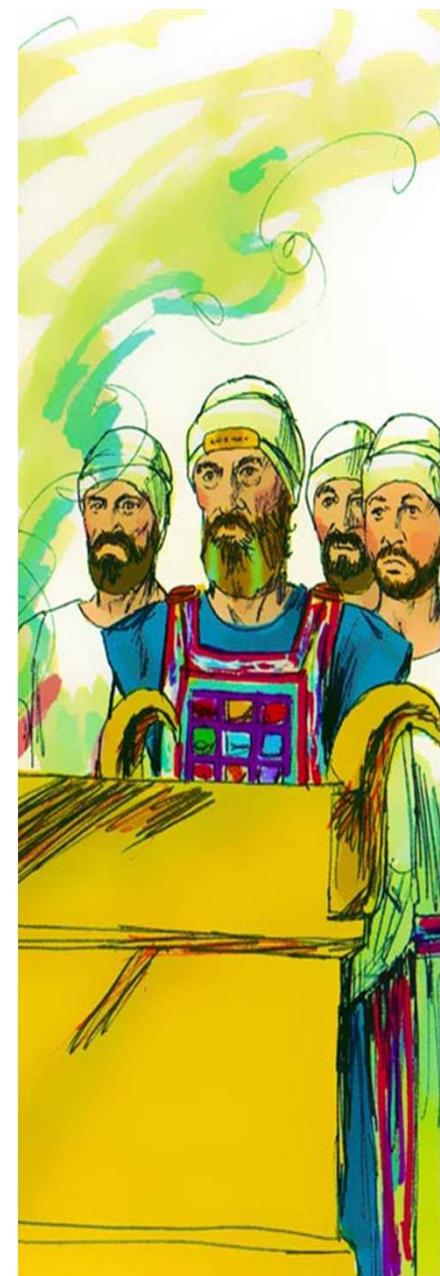
➡①幕屋の奉仕。②裁判官(申17:8～9)

③律法の巻物の管理(申17:18)。

④皮膚病の判定(申24:8)。※モーセの補助役も(申27:9)。

■ レビ人は、聖所での奉仕を希望すれば許可された。

➡すべてのクリスチャンに、主イエスに仕える特権が!!



【異邦の民の忌むべき慣わし】 申18:9～14

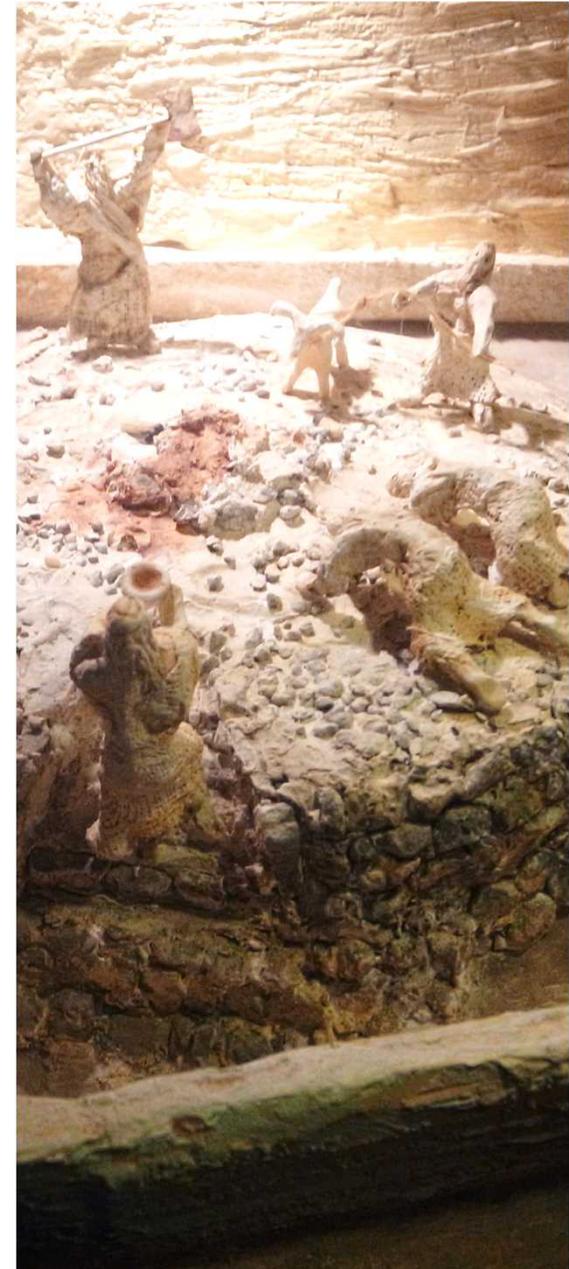
18:10～11 あなたのうちに、自分の息子、娘に火の中を通らせる者、占いをする者、ト者、まじない師、呪術者、呪文を唱える者、霊媒をする者、口寄せ、死者に伺いを立てる者があってはならない。

■これらのことが、カナンが神に聖絶される理由。

■偶像礼拝は、己の欲望のために他者を犠牲にし、悪魔、悪霊と交わり、自らを墮落させるもの。

➡唯一の真実の神への究極的背き!!

■イスラエルも、偶像礼拝に陥れば厳しく裁かれる。



【モーセのような預言者】 申18:15 ~16

あなたの神、【主】はあなたのうちから、あなたの同胞の中から、**私のような一人の預言者**をあなたのために起こされる。あなたがたはその人に聞き従わなければならない。これは、あなたがホレブでのあの集まりの日に、あなたの神、【主】に求めて、「私の神、【主】の御声は二度と聞きたくありません。この大きな火はもう見たくありません。私は死にたくありません」と言ったことによるものである。

■ 栄光を前に、民は己の罪を神のきよさを痛感した。

仲介者なくして、神の前に立つことはできない!!

* **モーセのような預言者** ➡ **究極の仲介者、メシア!!**



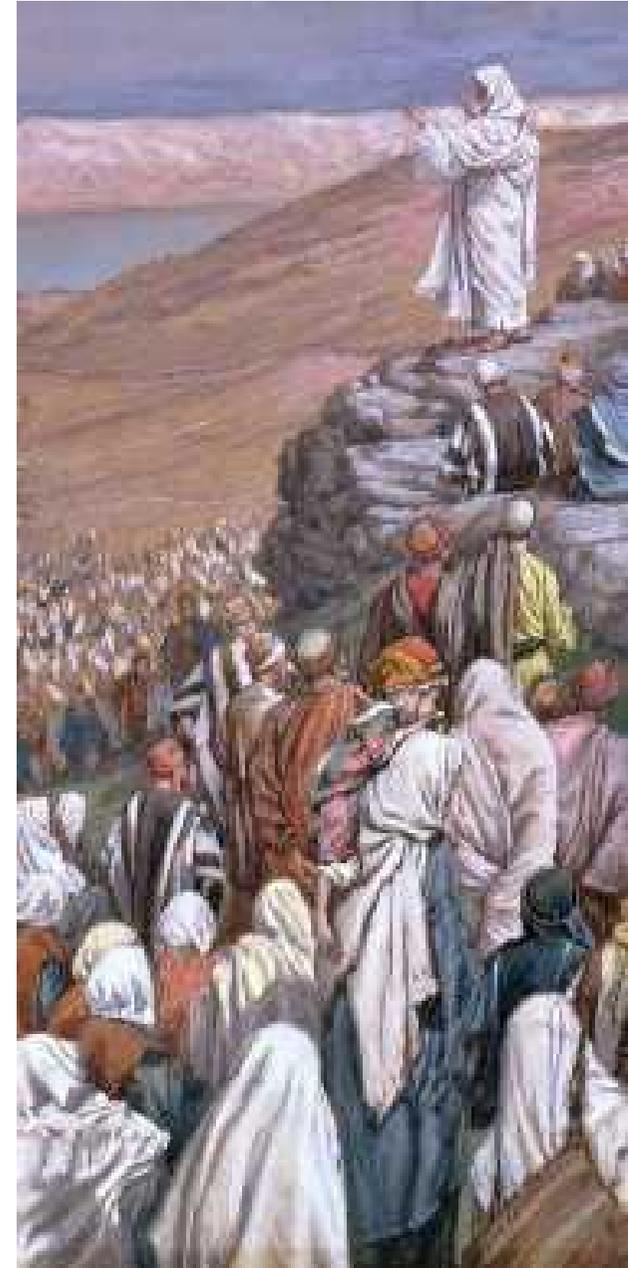
【完全なる仲介者】 申18:17~19

それで【主】は私に言われた。「彼らの言ったことはもっともだ。わたしは彼らの同胞のうちから、彼らのためにあなたのような一人の預言者を起こして、彼の口にわたしのことばを授ける。彼はわたしが命じることすべてを彼らに告げる。わたしの名によって彼が告げる、わたしのことばに聞き従わない者があれば、わたしはその人に責任を問う。

■究極の預言者、メシアは、完全な神の仲介者。

メシアに従わないことこそが、最も重い罪となる。

➡主イエスの福音を拒んだ者には、永遠の滅びが!!



【偽預言者への警告・見分け方】 申18:20～22

ただし、預言者であっても、わたしが告げよと命じていないことを、不遜にもわたしの名によって告げたり、あるいは、ほかの神々の名によって告げたりする者がいるなら、その預言者は死ななければならない。」

あなたが心の中で、「私たちは【主】が語られたのではないことばを、どのようにして知ることができるだろうか」と言うような場合、預言者が【主】の名によって語っても、そのことが起こらず、実現しないなら、それは【主】が語られたことばではない。その預言者が不遜にもそれを語ったのである。彼におびえることはない。

■ 究極の偽預言者が、反キリスト。悪魔の子。

偽預言者は
万死に値する

偽預言者は、
実によって判別

Ⅲ. 逃れの町 証人と裁き

申命記19章



【逃れの町】 申19:1～13

■ヨルダン川東岸には、三つの逃れの町が建設済。

→これから占領する西岸にも、三つが定められた

■逃れの町は、過失致死の加害者を「血の復讐をする者(家に責任を持つ者)」から保護する制度。

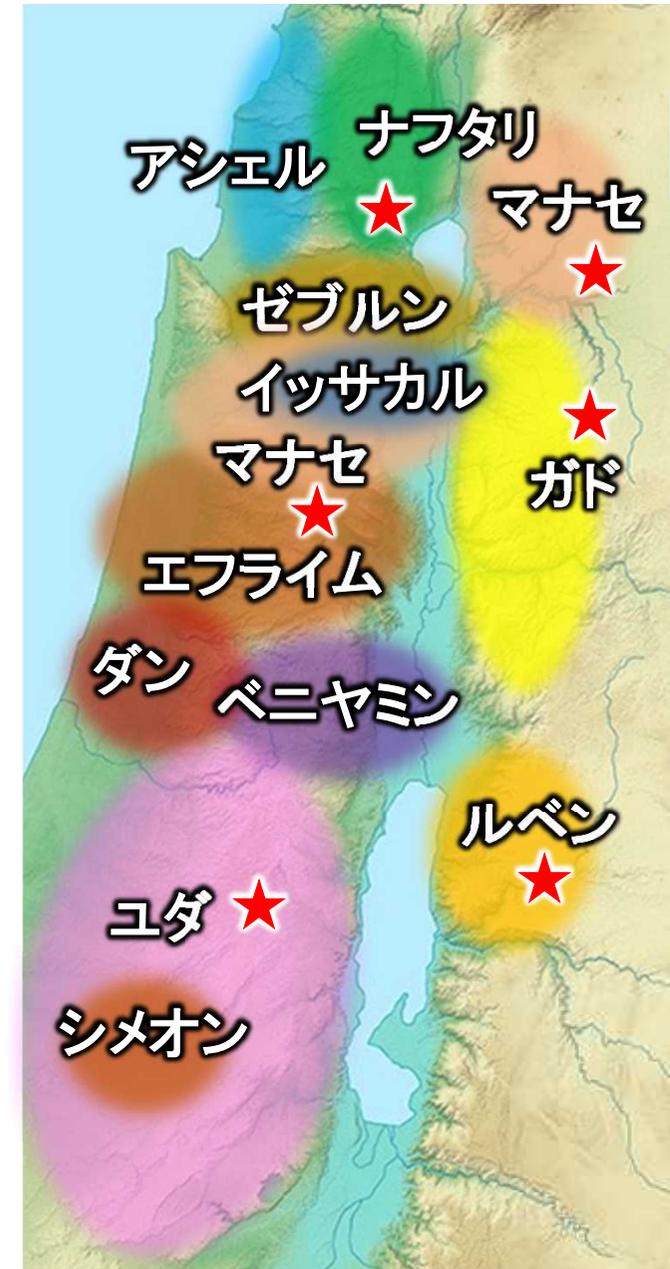
→流された血は、血で贖われるのが律法の原則。

→真の罪の赦しには、メシアの血の贖いが必要。

■主のすべての命令(単数形)を守り行うなら、さらに三つの町を追加するよう命じられた。

→律法すべてで、一つの神の命令。一体のもの。

■故意の殺人には、逃れの町は適用されない。



【相続地の地境・証人の規定】 申19:14 ~21

- 境界線の石を動かして、地境を移すのは、神が定めた相続地を盗む罪。
- 罪の立証には、複数の証人が必要とされた。
一人しか証人がいない場合は、聖所での裁判に訴えることができた(申17:8~13)
- 偽証が立証された者は、民の内から除かれた。
19:21 あわれみをかけてはならない。いのちにはいのちを、目には目を、歯には歯を、手には手を、足には足を。
 - ➡ 神の裁きは、厳正かつ公平で、間違いがない。
 - ➡ メシアの贖いの他に、裁きを逃れる道はない。





IV. 戦いの備え

申命記20章

【敵を恐れるな・祭司の取り次ぎ】 申20:1 ~4

あなたが敵と戦おうと出て行くとき、馬や戦車や、あなたよりも多い軍勢を見ても、彼らを恐れてはならない。あなたをエジプトの地から連れ上ったあなたの神、【主】があなたとともにおられるのだから。

あなたがたが戦いに臨むときには、祭司が進み出て民に語りかけ、彼らに言いなさい。「聞け、イスラエルよ。あなたがたは今日、敵との戦いに臨もうとしている。弱気になってはならない。恐れてはならない。うろたえてはならない。彼らのことでおののいてはならない。

あなたがたの神、【主】があなたがたとともに行って、あなたがたのために敵と戦い、あなたがたに勝利を得させてくださるからである。」



恐れるな

主が共に
おられるから

【従軍免除の特例】 申20:5～9

「恐れて弱気になっている者はいないか。その人は自分の家に帰るがよい。兄弟たちの心がその人の心のように萎えるといけないから。申20:8」

■ 従軍が免除される三つの特例。

① 新築の直後

② ぶどう畑の初収穫前 ➡ 最大5年、免除された。

③ 婚約中 ➡ 結婚後1年間、免除された。

■ 人道的な配慮と、戦意のない者を除くため。

■ それ以上に、強調されるのは、恵みを味わうこと。

➡ イスラエルが約束の地の恵みを味わうことこそ、主がなにより求められていること!!



【戦争のルール】 申20:10～20

- 古代の戦争は基本、虐殺と略奪。首長一族は全滅。
(例) “門”の漢字、凱旋門のルーツ。平家の落人狩り。
- ここでは、降伏の勧告が第一に命じられる。
降伏した敵の殺戮は許されない。
- 戦いになり、勝利しても、女、子どもには手をかけない。
- ただし、カナン人は聖絶しなければならない。
- カナン人は、滅びに値する罪を重ねてきた。
放置すれば、イスラエルが罪に犯され、裁きの対象となる。
- 砦を築くのに、カナンの地の木を切り倒してはならない。
ただし、実を結ばない木は例外。
→ 実のないイチジクを枯らしたイエス。(マルコ11:21)



V. 犯人不明の殺人の扱い 家族法

申命記21章



【犯人不明の殺人の贖い】 申21:1～9

- 野で殺された者の犯人が分からない場合、最も近い町で贖いをした。
- 使役されたことのない雌の子牛を、耕されたことのない谷川に連れて行き、首を折った。
- 神の祭司がこの贖いを司り、長老たちは証言した。「私たちの手はこの血を流しておらず、私たちの目はそれを見ていない。【主】よ、あなたが贖い出された御民イスラエルをお赦してください。咎のない者の血を流す罪を、御民イスラエルのうちに負わせないでください。」
 - ➡ 咎のない者の血を流す罪を、教えられていたイスラエルは、神の子イエスの血を流すことに!!



【家族法・捕虜を妻とする場合】 申21:10～14

- 戦いで捕らえた女を妻とする場合、身を整えさせ、一ヶ月喪に服す期間を与えるよう命じられた。
- 気に入らなくなった場合は、自由に去らせる。奴隷として扱い、他者に売ってはならない。

【家族法・複数の妻たちへの配慮】 申21:15～17

- 律法では、一夫多妻は、認められていた。
(聖書で、一夫多妻で幸せだった者はいない)
 - 愛されない妻の長子を差し置いての相続は禁止。
「その子は父の力の初穂であるから、長子の権利は彼のものである。」
- ➡ 神の定めた長子の権利を人が奪ってはならない!!



【家族法・第五戒の違反】 申21:18～21

ある人に強情で逆らう子がいて、父の言うことも母の言うことも聞かず、父母に懲らしめられても聞こうとしない場合、その父と母はその子を捕らえ、町の門にいる町の長老たちのところへ連れ出し、町の長老たちに、「私たちのこの息子は強情で逆らいます。私たちの言うことに聞き従いません。放蕩で大酒飲みです」と言いなさい。町の人々はみな彼を石で打ちなさい。彼は死ななければならない。あなたがたの中からその悪い者を除き去りなさい。イスラエルはみな聞いて恐れるであろう。

- イスラエルにおいて、両親に逆らうことは、神の権威に逆らうこと。 ➡ 主を恐れることが律法の基盤。



【木にかけられるろわれた死体】 申21:22～23

ある人に死刑に当たる罪過があつて処刑され、あなたが彼を木にかける場合*、その死体を次の日まで木に残しておいてはならない。その日のうちに必ず埋葬しなければならない。*木にかけられた者は神にのろわれた者だからである。あなたの神、【主】が相続地としてあなたに与えようとしておられる土地を汚してはならない。

* 石打刑の後に、死体を木にかける場合。

* 十字架刑は、律法によれば、のろいの死。

...のろいとは、神に見捨てられたということ。

■ イエスの遺体は、その日の内に下ろされた。

➡ メシアは、死に際しても、完全に律法を守られた。





VI. まとめと適用

真実の預言者であり、王
主イエスを待ち望む信仰に生きる

【モーセのようなもう一人の預言者】

あなたの神、【主】はあなたのうちから、あなたの同胞の中から、**私の**
ような一人の預言者*をあなたのために起こされる。あなたがたはその人
に聞き従わなければならない。申命記18:15

*** 私のような一人の預言者** ➡ 来たるべきメシアの呼び名の一つに!!

彼らはヨハネに尋ねた。「それでは、何者なのですか。あなたはエリヤで
すか。」ヨハネは「違います」と言った。「では、**あの預言者**ですか。」
ヨハネは「違います」と答えた。ヨハネ福音書 1:21

人々はイエスがなさったしるしを見て、「まことにこの方こそ、**世に来られ**
るはずの預言者だ」と言った。ヨハネ6:14 ➡ “5千人の食事の奇跡”の後。

【モーセのような預言者・メシアは来られた】

■ 律法が示す、“モーセのようなもう一人の預言者” メシアは来られた。

■ メシアは、神の律法を完全に成し遂げられた。

律法を正しく適用し、裁きを行われた。実を結ばぬ木を切り倒された。

■ 主イエス・キリストは、私たちの罪の贖いのために十字架にかけられ、神の呪いを身に受けられた。父なる神との完全な断絶を味わわれた。

■ メシアの、その葬りすらも、律法にかなって行われた。

■ しかし、メシアは、死を打ち破って復活された。

律法のもたらすのろいのすべては、メシアによって打ち破られた。

➡ **なににより求められるのは、十字架と死と復活の福音を受け取ること。**

【律法のもたらす呪いは破られた。祝福の内に招かれている私たち】

■ 呪いとは、神の祝福を失うこと。究極の呪いが、永遠の滅び。

地上では、すべての人に等しく日は注ぎ、雨は降る。

しかし、主を拒むなら、恵みのすべてが失われる時が来る。

■ 人に呪いをもたらしした律法だが、神が民に願ったのは恵みを味わうこと。

律法すら恵みであるなら、福音がもたらす恵みは、どれほどだろうか？

■ 主は、すべての人が恵みを受け取れることを願っておられる。

すべての信者が、恵みを味わい尽くすことを求めておられる。

■ 主の御言葉を、恵みとして味わい知っていこう。

主に導きに従い、御言葉の学びを深める人に、喜びは必ず溢れてくる。

再び来られる主を、待ち望みつつ、今この時を歩んでいこう。

「天のお父さま。

わたしは、み子イエス・キリストが、

- ①わたしの罪を贖(あがなう)うために十字架で死に、
- ②墓に葬(ほうむ)られ、
- ③三日目に復活したこと、を信じます。

あの預言者(よげんしゃ)、メシアは来られ、みわざを なしとげられました。
律法(りっぽう)の のろいではなく、祝福(しゅくふく)の よろこびを
味わいつくすものとしてください。

学びを深(ふか)め、救(すく)いの確信(かくしん)をもって
ここから 遣(つか)わされるものとしてください。

主イエス・キリストのみ名によって祈ります。

アーメン」